X-point

SAML ガジェット連携サービス
導入・設定ガイド

2026/06/05 版

ATLED

はじめに

◆本書の目的
本書は、SAML 認証サービスの利用環境で、他システムに X-point のガジェットを表示する為に必要なシステムの設定、導入方法について説明しています。本書をよくお読み頂いた上で設定作業を行ってください。

◆対象とする読者
本書は「X-point」のシステム管理者を対象としています。システム管理者とは「X-point」を運用するにあたり必要な設定および基本データの作成、維持管理を行なう本システムの管理権限を持つユーザを指します。

◆対応バージョン（2026/06/05 時点）

X-point	
X-point v3.13	「セキュリティ基本サービス」が必須になります。

！注意事項

※ X-point の SAML ガジェットは IFRAME 内に表示を行う前提になっており、ガジェットを表示する際に SAML IdP に認証状況を問い合わせるリクエストが送信されます。IFRAME からのリクエストに対し、SAML IdP が「X-Frame-Options」ヘッダに「deny」「sameorigin」等を設定し応答する仕様である場合、X-point は IdP の応答を受信できないためガジェットを表示する事ができません。

※ サードパーティーCooke が利用できない場合は本機能のポートレット表示を利用する事はできません。
但し、Chrome/Edge/Firefox ブラウザで Storage Access API が利用できる場合、ブラウザ操作者がコンテンツ使用を許可する事で本機能のポートレットが利用可能になります。許可指定の要否はポートレットを利用する際に行われ、ユーザによる使用許可の設定が必要であると判断された場合にポートレット表示位置に確認画面が表示されます。表示が許可された場合は 30 日以内に再利用する限り継続してポートレットが表示されます。30 日以内の利用が無い場合は再度コンテンツ使用の許可を求める表示が行われます。
なお、ブラウザ側で許可を受け付けない設定が行われている場合は変更できない事を示す表示が行われポートレット表示は行われません、ポートレット表示ができるように設定の変更を行ってください。

【設定項目】2025/10/06 時点
Chrome ・・・ 設定＞プライバシーとセキュリティ＞サードパーティーCookie
Edge ・・・ 設定＞Cookie とサイトのアクセス許可＞
保存された Cookie とデータ＞Cookie とサイトのデータ管理と削除
Firefox ・・・ 設定＞プライバシーとセキュリティ＞強化トラッキング防止機能

◆製品名について
本書中、「X-point サーバー」は「X-point」と表記しています。
また、各製品の名称は対応バージョンを省略してある箇所もありますのでご了承ください。

◆商標について

本書の一部、または全部を著作権所有者の許諾なしに、商用目的の為に複製、配布することはできません。
X-point、エクスポイントの名称およびロゴは株式会社エイトレッドの商標または登録商標です。
Microsoft、MS-DOS、Windows は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。Macintosh、MacOS は Apple Computer, Inc. の米国およびその他の国における登録商標です。Adobe、Acrobat、Adobe Acrobat は Adobe Systems, Inc. の商標または登録商標です。ORACLE、Java、JavaScript は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。デスクネッツ、desknet's は株式会社ネオジャパンの登録商標です。サイボウズ、Cybozu はサイボウズ株式会社の登録商標です。Google、Google ロゴ、Google Workspace は、Google Inc.の登録商標または商標です。

その他、記載された会社名およびロゴ、製品名などは該当する会社の商標または登録商標です。本書では、©、®、(TM) の表示を省略しています。ご了承ください。

◆製作著作
©2026 株式会社エイトレッド

目次／索引

1. **前提条件** 4
2. **X-point ガジェットの仕様** 5
2.1. X-point ガジェット 5
2.2. ガジェット表示サイズ 6
3. **ガジェット設定手順** 7
3.1. ガジェット URL 7
3.2. 設定方法 8
3.3. サードパーティーCookie が利用できない場合の動作 21

1. 前提条件

他システムに X-point のガジェットを表示するための前提条件について説明します。

▼用語説明

用語	説明
SSO(シングルサインオン)	一度の認証処理によって複数のサービスの認証が許可される仕組みです。一度認証を行うと各サービスを利用する際、都度認証が要求される事無く利用できるようになります。
第三者認証機関	ID、パスワードを一元管理し、異なるシステム間の SSO を実現する認証サービスを提供する IdP 事業者を指します。
SAML 認証	第三者認証機関との認証方式として、X-point では SAML V2.0 の仕組みに対応しております。この仕組みで行われる認証のことを指します。

1. 動作環境

本書は、X-point の SAML 認証サービス機能によって他システムとの SSO が実現できている環境を前提としております。

(SAML 認証サービスの利用方法は、X-point サポートサイトからご確認いただけます。)
※サポートサイトを利用するには弊社より提供するユーザ ID／パスワードが必要です。

2. ライセンス

本マニュアルで説明する機能を利用するには以下のライセンスが必要です。

- 「SAML ガジェットオプション」

3. ブラウザ環境

連携する外部システムと X-point の両環境でサポートされているブラウザを使用してください。

2. X-pointガジェットの仕様

SAML ガジェット連携サービスで利用可能なガジェットについて説明します。

2.1. X-point ガジェット

！注意事項

X-point ガジェットは、ドメイン設定のユーザサイトメニュー利用制限の対象外となります。特定のガジェットを非表示にしたい場合は、グループウェア等で個別に制御してください。

▼「提出」ガジェット

書類新規作成用ガジェットです。
ここからフォームを選択して X-point のフォームを開き、書類作成を行います。

▼「承認」ガジェット

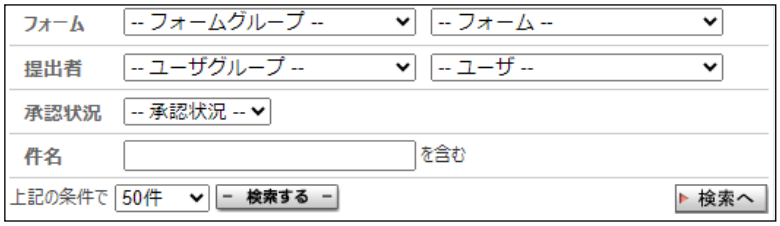
ワークフローの状況別件数を確認するガジェットです。
承認待ち件数等が確認できます。
件数のリンクをクリックすると X-point の【承認画面】へ遷移します。

※　ガジェット表示直後のワークフロー件数は全て０件で表示されます。表示後、暫くすると件数が表示されます。

※　「更新」ボタンを押すことで、直ちに件数を更新することができますが、10 秒以内に件数が更新されている場合は再取得されず件数の表示は変化しません。

▼「検索」ガジェット

書類を検索する為のガジェットです。
検索条件を入れて【検索する】ボタンをクリックすると X-point の【検索画面】検索結果画面へ遷移します。

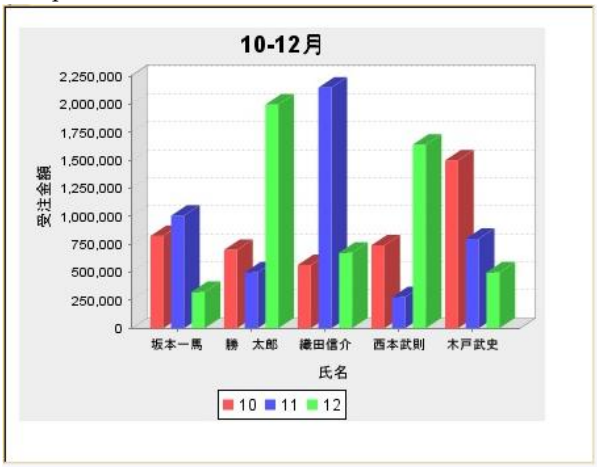


▼「ブックマーク」ガジェット

X-point で登録したブックマークの一覧が表示されるガジェットです。

▼「グラフ」ガジェット

X-point で作成したクエリの集計結果をグラフ表示できるガジェットです。



2.2. ガジェット表示サイズ

ガジェットを iframe などで表示する際の目安となるサイズです。
実際に表示する場合は表示枠のボーダー幅や、高さ方向に表示する項目数で変化する為、環境に合わせて調整を行なってください。

タイプ	幅(pixel)	高さ(pixel)	備　考
提出	380px	300px	内容で高さが変化します。
検索	550px	190px	
承認	570px	330px	承認待ち書類数で高さが変化します。
ブックマーク	380px	160px	全件表示の場合、高さが変化します。
グラフ	※1	※1	

※1 … 実際のグラフサイズに合わせて調整します。

3. ガジェット設定手順

連携する外部システムの機能仕様に従って、X-point ガジェットの URL を外部システムに設置します。
連携する外部システムは、X-point が利用する第三者認証機関との認証が可能である必要があります。

3.1. ガジェット URL

ガジェット表示の URL は、SSO 連携のリンク URL にガジェットタイプのパラメータを追加する形式となります。

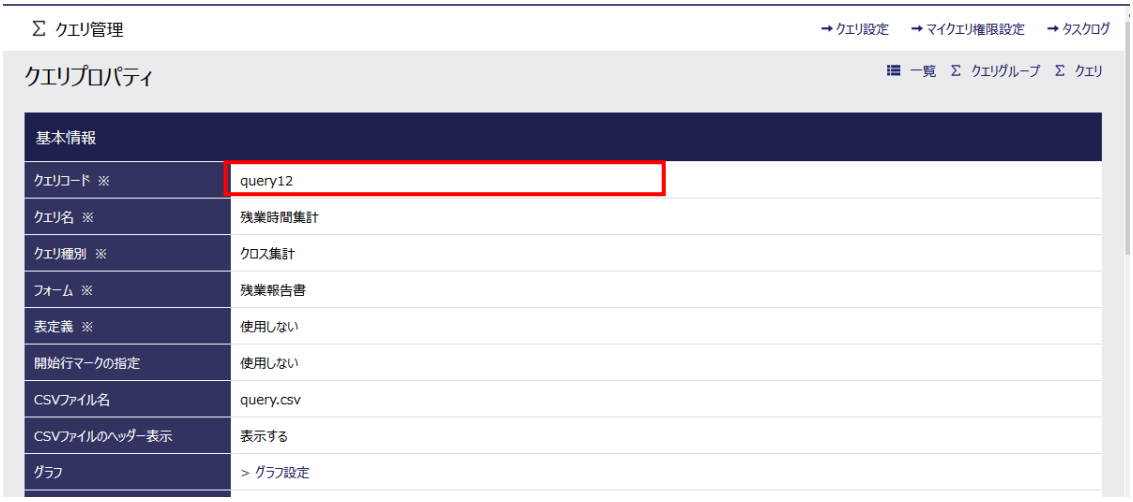
【例】承認ガジェットの URL
https://{サブドメイン}.atledcloud.jp/xpoint/samlauth/{ドメイン CD}.Forward=wkfl

ガジェット名	URL 設定例
提出	https://{サブドメイン}.atledcloud.jp/xpoint/samlauth/{ドメイン CD}.Forward=formLibrary
検索	https://{サブドメイン}.atledcloud.jp/xpoint/samlauth/{ドメイン CD}.Forward=finder
承認	https://{サブドメイン}.atledcloud.jp/xpoint/samlauth/{ドメイン CD}.Forward=wkfl
ブックマーク	https://{サブドメイン}.atledcloud.jp/xpoint/samlauth/{ドメイン CD}.Forward=bookmark
グラフ	https://{サブドメイン}.atledcloud.jp/xpoint/samlauth/{ドメイン CD}.Forward=queryChart-[クエリコード]

※ 「{サブドメイン}.atledcloud.jp」や「{ドメイン CD}」の部分は実際の URL に合わせてください。
※ 「グラフガジェット」について

グラフガジェット(queryChart)の場合、ガジェットのタイプに”-” (ハイフン)で区切って
表示対象のグラフのクエリコードを指定する必要があります。 (例： Forward=queryChart-query1)
「クエリコード」は X-point のクエリ管理から確認します。

▼クエリ管理/クエリプロパティ画面



！注意事項

- グラフ表示を「しない」設定になっている状態の場合、利用することはできません。
- 対象となるクエリの実行権限があるユーザにのみグラフが表示されます。
- グラフガジェットの URL に異なるクエリコードを指定して複数のグラフポートを追加することが可能ですが、大量の書類に対して検索するような処理の重いクエリのグラフガジェットを複数登録した場合、X-point のパフォーマンスの低下を招く可能性があります。

クエリ・グラフ設定の修正方法は、X-point 管理者機能マニュアル「グラフの設定」の章をご参照ください。

3.2. 設定方法

ガジェット URL を外部システム側に設置することで、ガジェットの表示を実現します、

＜ 設定例 ＞

連携する外部システムの機能仕様によって設定方法が異なりますが、
ここでは外部システムのウェブパーツ・ガジェット等に iframe 形式で指定する場合の設定例をご紹介します。

【例】HTML ページに iframe 形式でガジェットを表示する

```
<iframe width="550px" frameborder="0" height="300px" src="{ガジェット URL}">
</iframe>
```

※ ガジェット表示領域の幅、高さは「width」「height」で指定しますが、に表示されるガジェットのコンテンツの高さ、幅はガジェットの種類や iframe の枠線有無などによって変わります。
実際の表示状況に応じて微調整してください。
各ガジェットの表示サイズは、本書の『X-point ガジェットの仕様/ガジェット表示サイズ』をご参照ください。

【HTML 記述例】

ガジェットを表示させるための HTML を作成して表示を行います。

```
<!DOCTYPE HTML PUBLIC "-//W3C//DTD HTML 4.01 Transitional//EN" "http://www.w3.org/TR/html4/loose.dtd">
<html>
<head>
<meta http-equiv="Content-Type" content="text/html; charset=Shift_JIS"></meta>
<title>X-point</title>
</head>
<body>
<table>
<tr>
  <td>
      <iframe width="550px" frameborder="0" height="300px"
       src="https://{サブドメイン}.atledcloud.jp/xpoint/samlauth/{ドメイン CD}.Forward=wkfl">
      </iframe>
   </td>
</tr>
</table>
</body>
</html>
```

！注意事項

- 「{サブドメイン}.atledcloud.jp」や「{ドメイン CD}」の部分は実際の URL に合わせてください。

【表示例】

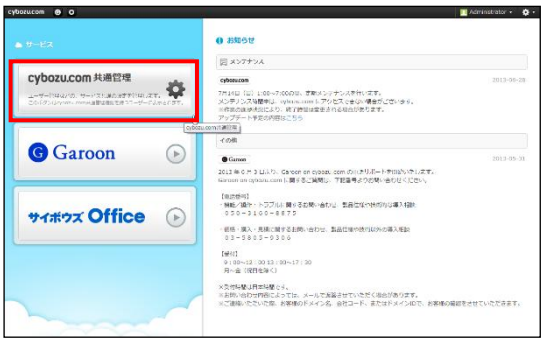
全件表示
NEW [2013/01/31] 体験版について
スーパーユーザ
NEW [2013/01/31] 夏季休暇について
スーパーユーザ
1.05
1.00
0.95
0.90
0.85
0.80
0.75
0.70
0.65
-- フォームグループ --
-- フォーム --
-- STEP --
更新
承認待ち 123
差し戻され 0
却下 0
回覧 0
下書き 86
保留 4
承認中(申請) 57
承認中(承認) 16
差し戻し 4
承認完了(申請) 0
承認完了(承認) 1
件名
書類
提出者
日付
営業1課/勝 太郎
交通費精算書
勝 太郎
2013/01/31 17:29:52
2013/01/31 17:29:44
2013/01/31 17:29:28
2013/01/31 17:29:10
経費管理(3)
仮払申請書
仮払申請承認ルート
経費精算書
経費精算承認ルート
経費精算書・台紙つき
経費精算ルート
契約書類管理(1)
報告書(1)
残業・休暇管理(4)
人事関連(3)
フォーム
-- フォームグループ --
-- フォーム --
-- 状況確認フォーム --
提出者
-- ユーザグループ --
-- ユーザ --
承認状況
-- 承認状況 --
件名
を含む
ブックマークの整理
全件表示
クレーム報告書
交通費精算書 個人別
営業1課/勝 太郎279

＜ 設定例 －cybozu.com－ ＞

主な外部システムへの設定例として、「cybozu.com」にガジェットを設置する方法をご紹介します。

サイボウズ Office の設定例

1） cybozu.com 共通管理者でログイン後、【cybozu.com 共通管理】→【各サービスの設定】の「サイボウズ Office システム設定へ」をクリックします。



→

2） サイボウズ Office システム設定で、【詳細設定】タブ→【カスタマイズ】→【トップページの最初のレイアウト】画面に遷移します。

▼トップページの最初のレイアウト画面

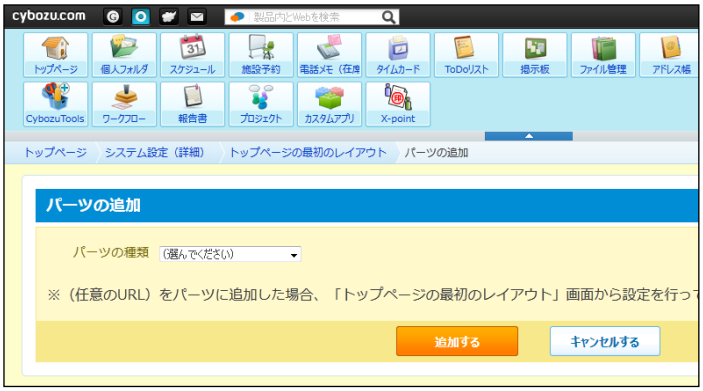
！注意事項

初めて【トップページの最初のレイアウト】画面を開いた場合は、初期設定画面が表示されますので「設定する」をクリックしてください。

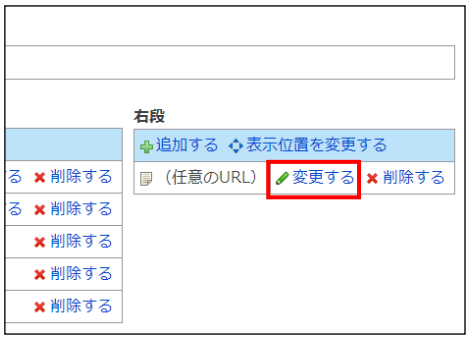
3） 表示させたい段の 追加する より【パーツの追加】画面へ遷移し、パーツの種類より「(任意の URL)」を選択して 追加する をクリックします。

→

▼パーツの追加画面

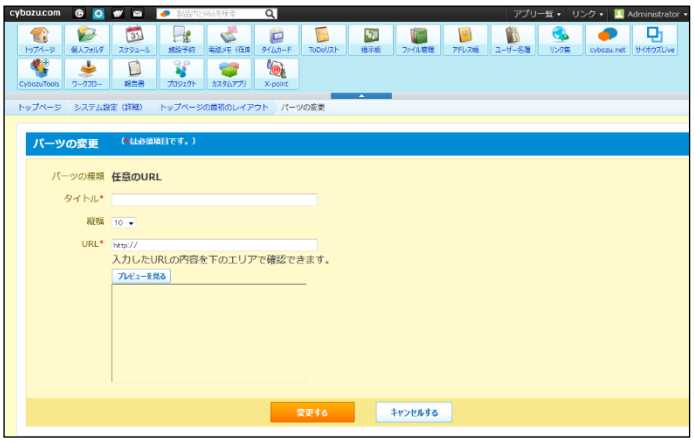


4） 追加された項目の 変更するより【パーツの変更】画面へ遷移し、追加したいガジェットの「ガジェット URL」を設定し 変更する をクリックします。



→

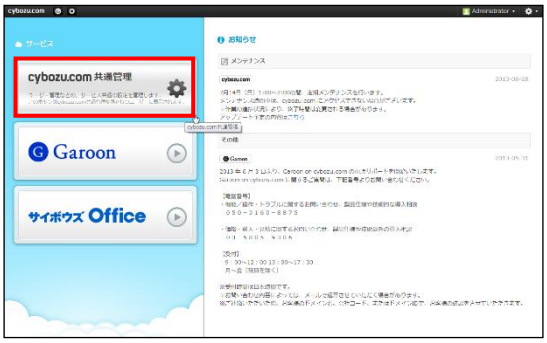
▼パーツの変更画面



項目名	設定値
タイトル	″提出″、″承認″など追加するガジェットに応じて任意のタイトルを入力します
縦幅	最初は 20 程度に設定し、実際の表示状況に合わせて微調整を行ってください
URL	{ガジェット URL}を入力します

Garoon の設定例

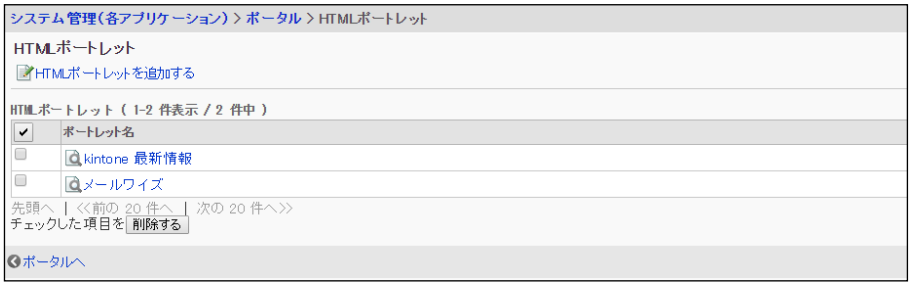
1） cybozu.com 共通管理者でログイン後、【cybozu.com 共通管理】→【各サービスの設定】の「Garoon システム管理へ」をクリックします。



→

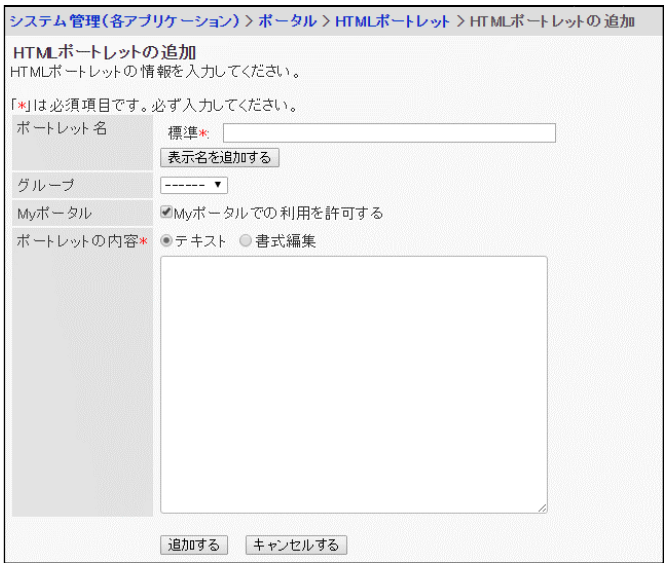
2） Garoon システム管理で、【各アプリケーションの管理】タブ→【ポータル】→【HTML ポートレット】画面に遷移します。

▼HTML ポートレット画面



3） HTMLポートレットを追加する をクリックして【HTML ポートレットの追加】画面に遷移します。

▼HTML ポートレットの追加画面



4） 以下の情報を入力して 追加する をクリックします。

項目名	設定値
グループ	任意のグループを指定します
My ポータル	必要に応じてチェックします
ポートレットの内容	次の**赤字**箇所を修正して入力します <table width="**[ポートレットの横幅]**" border="0" cellspacing="0" cellpadding="0"> <tr> <td> <iframe src="**[ガジェットURL]**" width="100%" height="**[ポートレットの縦幅]**"> </iframe> </td> </tr> </table>

※ ガジェット表示領域の幅、高さは「width」「height」で指定しますが、に表示されるガジェットのコンテンツの高さ、幅はガジェットの種類などによって変わってきますので、実際の表示状況に応じて微調整してください。各ガジェットの表示サイズは、本書の『X-point ガジェットの仕様/ガジェット表示サイズ』をご参照ください。

＜ 設定例 －Google Workspace－ ＞

主な外部システムへの設定例として、「Google サイト」にガジェットを設置する方法をご紹介します。
「Google サイト」には「新しい Google サイト」「以前の Google サイト」の 2 種類が存在し、設定方法が異なります。

1． 新しい Google サイトへの導入方法

X-point のガジェットを新しい Google サイトの任意のページに設定します。

＜手順＞

1） 編集権限を所有するアカウントでガジェットを導入したいサイトに遷移します。

2） メニューの[挿入]＞[埋め込み]をクリックします。

3） [埋め込みコード]をクリックします。

4） ガジェット用 URL を利用した HTML 形式のコードを入力します。

（入力コードの形式）
<iframe width="**横幅**" height="**縦幅**" src="**ガジェット URL**"></iframe>

【記述例】

```
<iframe width="300px" height="300px"
 src="https://{サブドメイン}.atledcloud.jp/xpoint/samlauth/{ドメイン CD}.Forward=wkfl">
</iframe>
```

※ width(横幅)、height(縦幅)は、それぞれピクセル単位(px)で指定し、任意のサイズに調整してください。

5） [次へ]をクリックします。

6） X-point のガジェットが表示されることを確認し、[挿入]をクリックします。

２．以前の Google サイトへの導入方法

「以前の Google サイト」では、「Google ガジェット」の機能を利用して、Google サイトにガジェットを表示します。

Google ガジェットの仕組み

Google ガジェットは以下の仕組みで動作します。
① GoogleApps が、URL でインターネット上に公開された「ガジェット XML（※１）」を取得します。
② 取得したガジェット XML に記述されているコンテンツを要求します。
③ コンテンツの要求先からガジェットの表示内容を受け取ります。

※１ ガジェット XML … XML フォーマットで記述されたガジェットの定義情報を指します。
Google Apps は Google ガジェットの表示の際、この情報にインターネット経由でアクセスします。

Google ガジェットの公開

1） ガジェット XML を作成します。
① メモ帳などのテキストエディタを開き、以下の赤字の部分を修正した内容を入力してください。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<Module>
  <ModulePrefs title="タイトル"
               description="X-point Gadget"
               height="250">
  </ModulePrefs>
  <Content type="url" href="ガジェット URL" />
</Module>
```

・XML の説明

<ModulePrefs>	title	ガジェットのタイトルです。ガジェットの上部に表示されます。（省略可能です）
	description	ガジェットの説明です。（省略可能です）
	height	ガジェットの高さを指定します。 表示されるガジェットのコンテンツの高さはガジェットの種類などによって変わりますので、実際の表示状況に応じて微調整してください。 各ガジェットの表示サイズは、本書の『その他/ガジェット表示サイズ』をご参照ください。
<Content>	type	コンテンツのタイプを指定する文字列です。「url」を指定します。
	href	参照先の URL を表す文字列です。※ガジェット URL を指定します。

② 任意のファイル名で保存します。（例:xpoint_gadget.xml）
ファイルの文字コードは「UTF-8」を指定してください。

2） ガジェット XML をインターネット上に公開します。

Google ガジェットを利用するためには、作成した XML ファイルを Google が運営する Google Apps サーバーより参照できる状態にしなければなりません。その為、作成した XML ファイルはインターネット公開されたサーバーに配置する必要があります。
お客様の管理サーバーなどにガジェット XML をアップロードし、インターネット上からアクセス可能な状態にします。
（インターネット上にアップロードしたガジェット XML ファイルの URL を、ブラウザのアドレス欄に入力してダウンロード可能かご確認ください。 例:http://example.com/public/xpoint_gadget.xml）

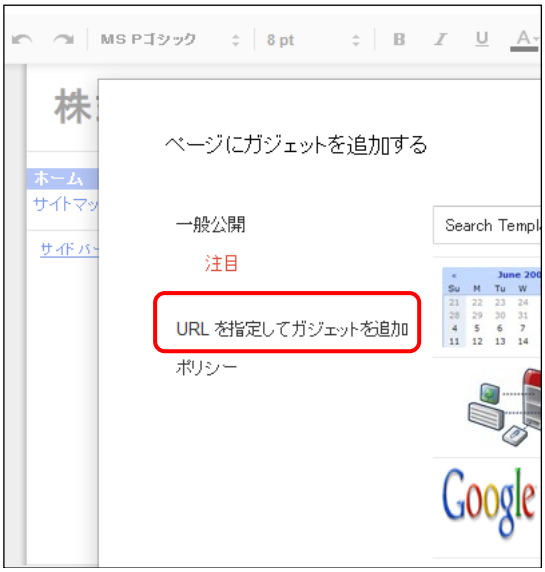
Google サイトの設定

X-point のガジェットを Google サイトの任意のページに設定します。

1） Google サイトで「ページを編集」ボタンをクリックします。

2） 挿入＞「その他のガジェット」を選択します。

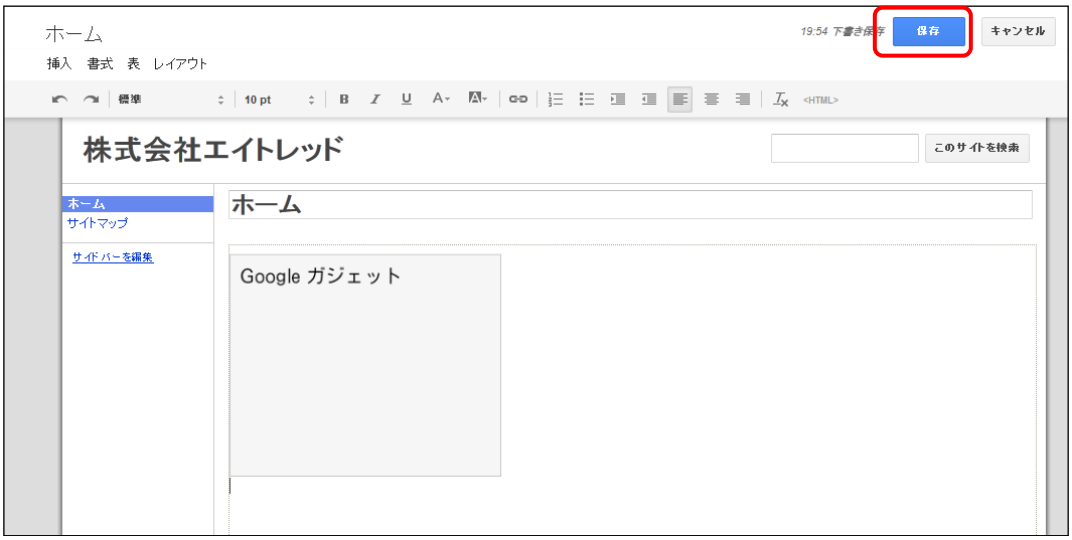
3） 「ページにガジェットを追加する」画面の「URL を指定してガジェットを追加」をクリックします。



4） 公開した「ガジェット XML」の URL を入力して「追加」ボタンをクリックします。
（例：http://example.com/public/xpoint_gadget.xml）

5） 追加するガジェットのサイズに適したレイアウト設定を行い、プレビュー後に「OK」ボタンをクリックします。

6） ページ編集画面で「保存」ボタンをクリックします。



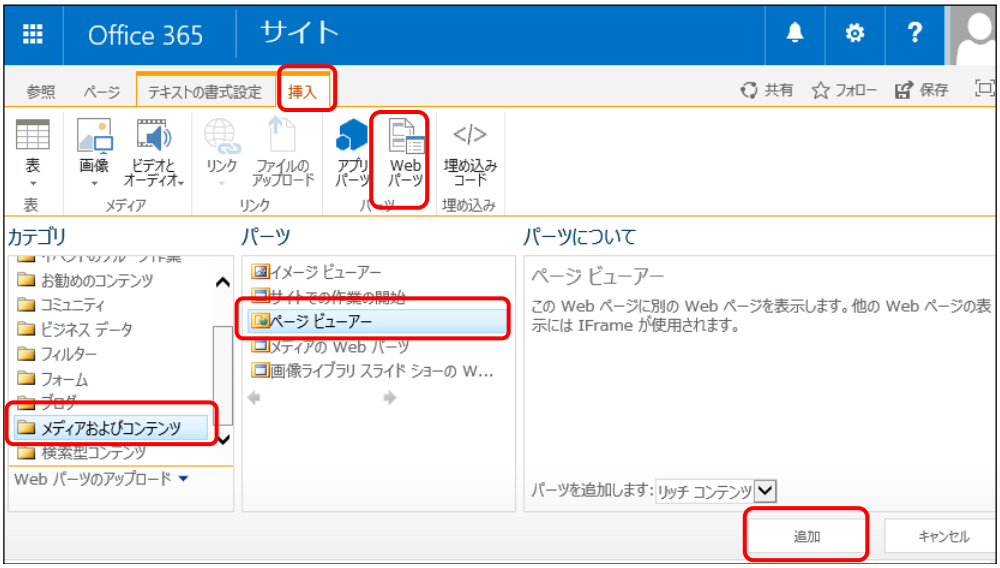
＜ 設定例 －Office365/SharePoint－ ＞

主な外部システムへの設定例として、「Microsoft Office365/SharePoint」にガジェットを設置する方法をご紹介します。
ここでは「SharePoint サイト」の「Web パーツ」でガジェットを表示する例を説明します。

クラシックエクスペリエンスの場合

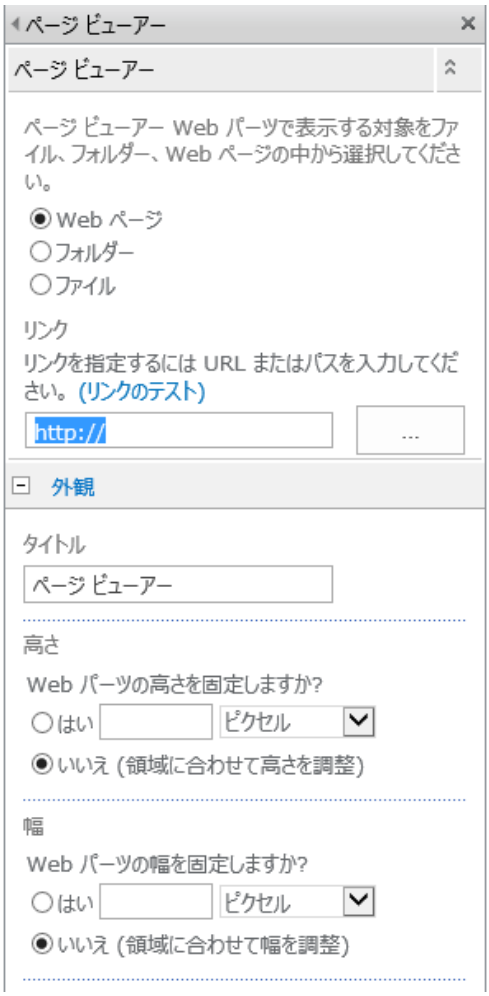
1） 追加したいサイトに遷移して、[編集]をクリックします。

2） サイトの編集画面で、[挿入]→[Web パーツ]→[メディアおよびコンテンツ]→[ページビューアー]→追加の順にクリックします。



3） サイトに追加された Web パーツ(ページビューアー)の[Web パーツの編集]をクリックします。

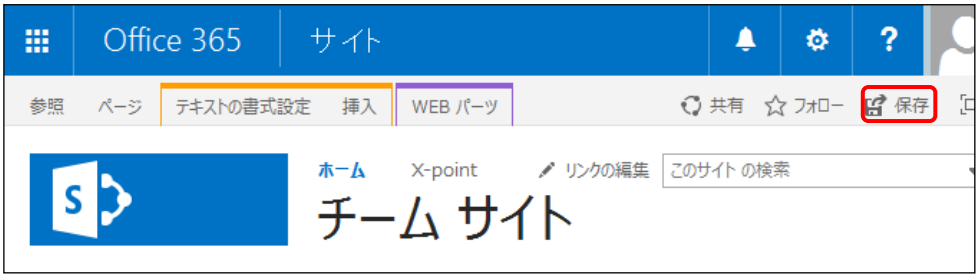
4） Web パーツのプロパティに、表示する X-point ガジェットの情報を設定し、[適用]をクリックします。



ページビューアー	「Web ページ」を選択し、ガジェット URL を入力します
外観	タイトル・高さ・幅に任意の値を入力します

※ 表示されるガジェットのコンテンツの高さはガジェットの種類などによって変わりますので、実際の表示状況に応じて微調整してください。
各ガジェットの表示サイズは、本書の『X-point ガジェットの仕様/ガジェット表示サイズ』をご参照ください。

5） ［保存］をクリックして設定を確定します。



モダンエクスペリエンスの場合

1） 追加したいサイトに遷移して、[編集]をクリックします。

2） サイトの編集画面で、Web パーツを追加するため[＋]をクリックします。

3） Web パーツの中から[埋め込み]を選択します。

4） [埋め込み]のプロパティが表示されるため、「Web サイトのアドレスまたは埋め込みコード」に URL か iframe を設定します。

5） [再公開]をクリックして設定を確定します。

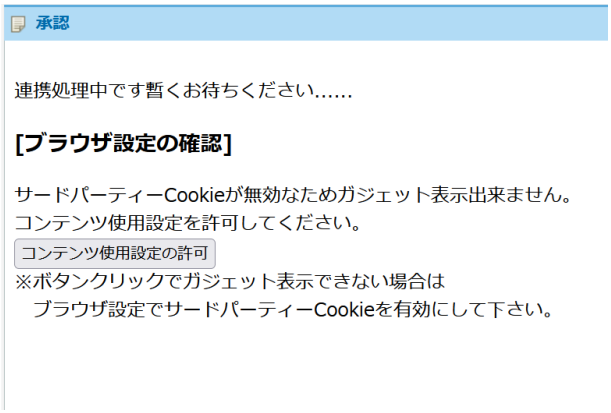
3.3. サードパーティーCookie が利用できない場合の動作

サードパーティーCookie が利用できない設定であるブラウザではポートを表示する事ができません。
但し、Chrome／Edge／Firefox ブラウザで Storage Access API が利用できる場合は、ブラウザ操作者がコンテンツ使用を許可する事で本機能のポートレットを利用する事が可能になります。
コンテンツ使用の許可はポートを表示する一連の動作に組み込まれています。

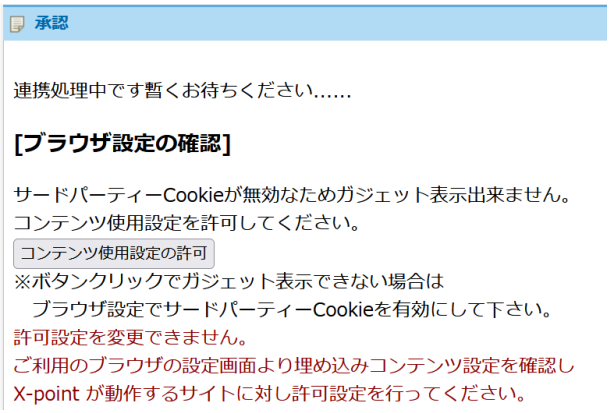
【許可動作の流れ】

1. X-point の SAML ガジェット表示機能を呼び出す
2. サードパーティーCookie の利用が許可されている ⇒ ガジェットを表示して終了
3. Storage Access API の利用が許可されている ⇒ ガジェットを表示して終了
4. ガジェット位置に「コンテンツ使用設定の許可」ダイアログが表示される
5. ユーザが「コンテンツ使用設定の許可」をクリックする（必ず“人”が操作します）
6. ブラウザ設定で Storage Access API の許可操作が許されている ⇒ ガジェットを表示して終了
7. ブラウザ設定が Storage Access API の許可操作を許していない ⇒ ガジェットの表示は出来ません

【「コンテンツ使用設定の許可」ダイアログ】



【Storage Access API の許可操作が許可されていない】



Storage Access API の利用が許可されるとガジェットが表示されるようになります。
複数のガジェットを表示する画面の場合は、一つのガジェットで許可を行うと他のガジェットも自動的に許可されます。

※ 自動で許可されない場合は、画面全体を再表示してください。

表示が許可された場合は 30 日以内に再利用する限り継続してガジェットが表示され表示の度に延長されます。30 日以内の利用が無い場合は再度コンテンツ使用の許可を求める表示が行われます。

■改訂履歴

改版	改版内容
2021 年 4 月 1 日版	初版リリース
2022 年 3 月 14 日版	マニュアルタイトル等の各部の名称を変更
2024 年 11 月18 日版	サードパーティーCookie が利用できない場合の動作を追記
2025 年 1 月 9 日版	「2.1.X-point ガジェット」の表示イメージを更新
2025 年 10 月 6 日版	「2.1.X-point ガジェット」 ・注意事項に X-point のガジェット表示制御の制約を追加
2026 年 6 月 5 日版	Office365/SharePoint の設定例にモダンエクスペリエンスの例を追加